

北海道医歌人会詠草

北のウォール街

札幌 山口 康徳

そのかみに北のウォール街と称はる街いま観光に活気あふるる
村人を越えたる猫ら意気高しわれらは護る島と人とを（宮城県猫島）
にぎやかに華麗伴ふ実験をこれ見よがしに揚ぐるとつづくに

北国の特徴なるや植物ら春を待ちわび百花繚乱
猖獗を極めむとする疫病も対策効きしや辟易ほのめかす

卒寿

札幌 小国 孝徳

敵弾にも当らずマラリアにも打ち勝ちて遂に九十の坂を越えたり
大演習に昭和天皇の泊りたまひたる農学部ただに眩しかりにき
五十米ごとに休み休み愉の杜来りて今日はクラーク像の前
吾が持てる志功や金次郎を欲る美術商細君と来て庭の草刈つてゐる
百万と値のつく金次郎の白百合の画妻の好めば売ることなし

インフルエンザ騒ぎ

札幌 古屋 統

神戸より京都より学会偲ぶ会急遽中止のメール相次ぐ
辛うじて博多のセッション催され座長マスクで兵庫より着く
懇親会京都大阪共に酌み七日後われら発熱はなし
インフルエンザ菌濾過性病原体論争をポツケン先生熱く説き給ふ
スペイン風邪母は語りき幾人の急死に揺れし羽後の村里

満開の桜

美唄 吉村 誠治

満開の桜めでつつ登り行く旧万字線残雪ふえくる
冬の間の閉鎖は解かれ草萌へる満開の桜我を迎える
訪ぬれば早咲き遅咲き夫々に一度に咲きて心奪はる
百年に一度のことと人の言ふ今年の桜は色美しき
三十分並び求めし生キャラメルたちまち融けて桜に似たり

フキノトウ

札幌 浜島 泉

苦くして香りよきものフキノトウ我が人生の味はひに似て
圃場なる黒土いまし濡れてをり雪解け水の氷や溶けし
尾根筋は屹立溪谷は切れ込みて光と影が魅力恵庭は
日のあたる坂道出会ふニューズーツ我が教壇も今日新学期
律動が整ひ静止の時到来的末の息子の到着ののち

細き一線

釧路 児玉 昌彦

欲望のデュアルライフが一線を踏みはずしたる深夜の惨劇
やさしくて面倒見よい「名医」にも爛れた夜の秘密がありたり
手に負へぬ「けもの」をうちに飼ひし日を想ひ返して言葉詰まり
かの人の手など握りし夢の中されど悲しき別れはうつつ
危ふさをなだめすかしてその日その日過ぎしゆくなり夫婦といふもの

初夏のニセコ

栗山 高田 剛太

羊蹄に向かひ飛びゆく白球に心も弾むナイスショットは
古池や白球飛びこむ水の音苦き波紋の胸に拡がる
山深き温泉宿の夕食のタケノコ山菜初夏を味わふ
聞こゆるは葉ずれの音とせせらぎのかすかな響き山宿の夜
朝霧の晴れて陽の射す白樺の林の彼方目国内見ゆ

確執

旭川 稲積 文子

痛き膝いたはり夜半に湿布する老いの孤独をかみしめ乍ら
痛む膝何時迄続くや今朝もまた湿布して仕事の準備が始まる
確執は今なほ深く残れども予告なき計報に心たじろぐ
結果には違ひなけれどそれぞれの手順異なり二人は諍ふ
サンセットの名に惹かれ来し浜の宿夕餉の酒も肴も旨し

落花

江別 三宅 浩次

花咲かの爺が咲かせし桜花華やかなれど散るときぞ散る
牡丹花は咲き定まりて静かなり長塚節の花も散るらむ
散るは同じと同期の桜歌った同期が次々逝きて
散り際を美しくあれと昔人が宣ふようには行かぬ現代
散る花をなぜ美しいと思ふのだらう人の心に理屈などない